

## インド金融政策(2019年2月)

～RBIは政策金利を引き下げ～

2019年2月8日

### お伝えしたいポイント

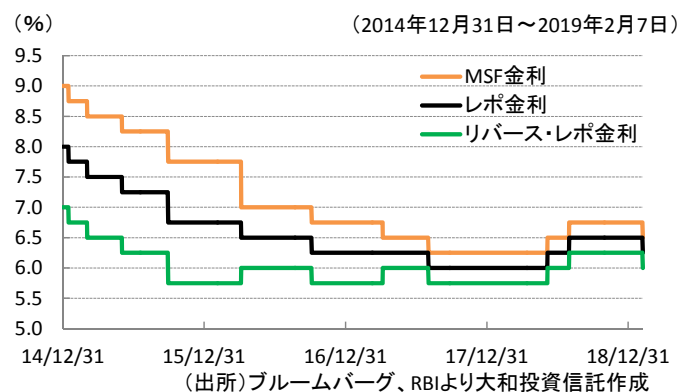
- RBI(インド準備銀行)は政策金利を引き下げ
- 予算案は景気浮揚策を盛り込みつつ、財政健全化の方向性も維持
- 堅調なインド金融市場およびモディ政権の継続を見込む

### <RBIは政策金利を引き下げ>

2月7日(現地、以下同様)に開催された金融政策委員会において、RBI(インド準備銀行)は政策金利であるレポ金利を0.25%ポイント引き下げ、6.25%にすることを決定しました。また、MSF(貸付ファシリティ)金利を6.50%に、リバース・レポ金利を6.00%にそれぞれ0.25%ポイント引き下げました。今回はダス新 RBI 総裁の下での最初の会合でした。市場予想は据え置きが優勢であったため、利下げはややサプライズとなりました。

2018年後半以降、インドのインフレ率は低下が続いており、1月に発表された最新のCPI(消費者物価指数)は前年比+2.19%と、RBIのインフレ目標である+4%を下回っています。また、米国の金融引き締め姿勢の後退により、新興国からの資金流出懸念を背景とした通貨安懸念も後退しました。これらの要因がRBIに政策金利の引き下げ余地を与えた模様です。

### 《政策金利の推移》



### <予算案は景気浮揚策を盛り込みつつ、財政健全化の方向性も維持>

インド政府は2月1日、2019年度(2019年4月～2020年3月)の政府暫定予算案を発表しました。下院総選挙を控え、有権者からの支持拡大を意識した政策が盛り込まれました。特に有権者数が多い農家や中低所得者層に焦点をあてた、収入補助や所得税負担の軽減などの景気浮揚策が盛り込まれました。

財政赤字のGDP(国内総生産)に対する比率は2018年度が3.3%から3.4%へ引き上げられ、2019年度も3.4%と、当初よりも赤字がやや拡大する計画です。ただし、2020年度は3.0%とする目標が堅持され、将来的な財政健全化の方向性は維持されました。

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <堅調なインド金融市場およびモディ政権の継続を見込む>

### 金融市場の見通し

2018年12月に政権に近いダス元財務次官がRBIの新総裁に着任し、RBIは政府と足並みをそろえて規制緩和や流動性の供給などに努めています。政府は2019年2月にも国営商業銀行への公的資本を注入する可能性を示唆しており、RBIも国債買い入れオペにより流動性を供給すると発表しています。こうした政府と中央銀行の協調した政策運営は、インド金融市場を全般的にサポートすると考えています。

### 債券市場

抑制された原油価格とインフレ率が続く中で、金利低下余地があると考えています。また、足元のインフレ率が2%台であることを考えると、現在の6.25%の政策金利は依然として高く、今後も利下げ余地があるとみています。そのため、インドの債券は、高い利回りと値上がり余地の両面で魅力的であると考えています。

### 株式市場

今回の利下げが景気にプラスに働くとみられ、株価上昇の支援材料となることが期待されます。また、発表された予算案も景気の追い風となることから、株価は下支えされると見込んでいます。

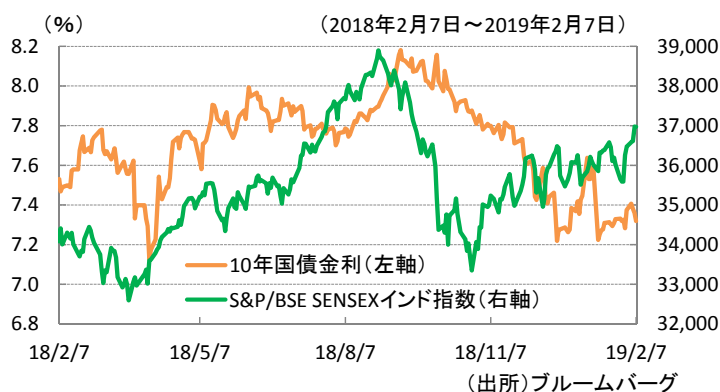
### 為替市場

足元、インド・ルピーに対する逆風は弱まったとみています。抑制された原油価格や、足元の米国の利上げ観測の後退は、インド・ルピーのサポート要因になると考えます。

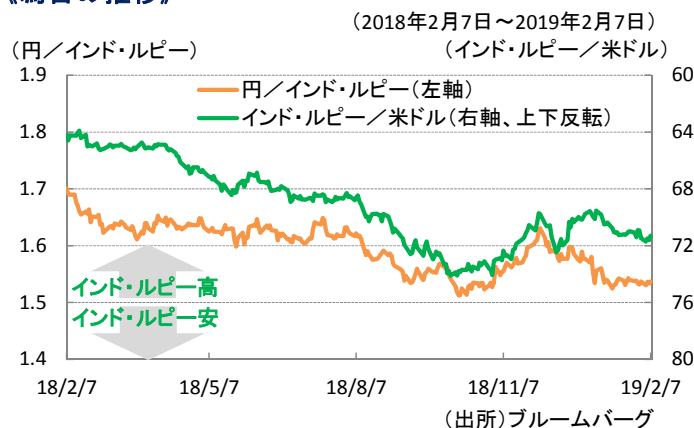
### 5月の総選挙について

政治イベントとしては、5月までに行われる下院総選挙に注目が集まります。モディ首相率いる与党インド人民党は議席数を減らすと見込まれるものの、依然としてモディ首相は人気のあるリーダーであることから、政権は継続すると当社ではみています。政権の維持が実現されれば、経済改革への期待から、インド金融市場への投資魅力が増すと考えられます。

### 《国債金利・株価指数の推移》



### 《為替の推移》



以上

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>